

平和意識の普及啓発や人権尊重を推進する

➤ 目指す姿

- 恒久平和の実現に向けて、自分にできることを考え、実行しています。また、その行動が周囲の人々にも影響を与え、社会全体がより平和へと向かっています。
- 一人一人の人権が尊重されており、あらゆる差別がなく、多様な人々が社会で活躍しています。また、ジェンダー平等^{※1}のもと、お互いの個性や違いを尊重し、多様性を認め合いながら、自分らしく生きることができています。

※1 一人一人が、性別に関わらず平等に責任、権利、機会を分かち合い、あらゆる物事を一緒に決めること。

➤ 現 状

- 戦争体験者の高齢化が進み、戦争を知らない世代が増えています。
- 人権問題は社会の変化につれて多様性と複雑性が増しています。
- 社会の様々な場面で、男性優位の状況が見られます。

➤ 課 題

- 戦争の悲惨さを後世に伝える必要があります。
- 平和推進の主体を若い世代を中心に担ってもらう必要があります。
- 人権尊重の理念を浸透させる必要があります。
- 固定的な性別役割分担意識^{※1}を解消させる必要があります。

※1 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきなど、性別を理由に役割を固定的に分ける考え方のこと。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 児童、生徒及び学生を中心に、平和意識の普及啓発に取り組めます。
- 人権教育及び人権啓発を推進するとともに、関係機関との連携を深め、様々な人権問題に関する相談・支援体制の充実を図ります。
- 性別に関わりなく、その個性と能力を十分に発揮できる社会を実現するための環境づくりを進めます。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

◇戦争体験談等の電子媒体への保存と活用

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
平和推進事業への参加者数	1,620人	4,100人	4,400人
平和推進事業における若い世代の協力者★1数	28人	50人	80人
市審議会等における女性委員の割合	27.2%	30%	40%
人権事業への参加者数	865人	920人	940人

★1 中学生・高校生・大学生のボランティアなどのこと。

市民交流・多文化共生を推進する

➤ 目指す姿

- 友好都市・姉妹都市^{※1}との相互理解が深まり、異なる文化や価値観を受け入れることができる豊かな人間性が育まれています。また、多文化共生のまちとして、多様な市民が言語や生活習慣の違いを理解し、尊重し合いながら暮らしています。
- 市民、企業及び大学が強みを持ち寄って交流し、地域への愛着を深め、つながりができています。

※1 様々な分野での交流や友好親善を目的として、両市長が書面にて提携に合意した都市のこと。名称の使い分けに法律上の定めはないが、本市では、国内の都市を友好都市、海外の都市を姉妹都市としている。

➤ 現 状

- 社会情勢の変化により、交流に対する市民の考え方が多様化しています。
- 留学生や技能実習生の増加に伴い、外国籍市民が増加しています。
- 新たな姉妹都市提携により、市民交流の機会が創出されています。
- 文化・生涯学習、スポーツ、福祉、環境、観光・産業の分野において、市民、企業及び大学の交流を進めています。

➤ 課 題

- 友好都市・姉妹都市の魅力について、理解と関心を高める必要があります。
- 外国籍市民が地域で安心して暮らせることが必要です。
- 企業や大学の持つ知識やノウハウを活かし、市民、企業及び大学のつながりを強化する必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 社会情勢や市民ニーズを捉えた友好都市・姉妹都市との交流を推進します。
- 多言語による相談や情報提供を行うとともに、外国籍市民のための日本語教室の充実を図ります。
- 多様な文化や習慣に触れる機会を充実させ、共生の意識を高めるとともに、異文化理解を促進します。
- 多様な分野において、市民、企業及び大学による地域活動の活性化を支援します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ◇姉妹都市とのオンライン交流の推進
- ◇日本語教室のオンライン化による学習機会の拡充

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
市民交流事業参加者数【累計】	238人	638人	958人
日本語教室の受講者数【累計】	54人	204人	324人
市民・大学交流委員会の事業数	11事業	14事業	14事業

コミュニティ活動を促進する

➤ 目指す姿

- 地域ぐるみで自発的・自立的に地域課題が解決できるコミュニティが形成され、地域の絆が育まれています。

➤ 現 状

- 地域課題が多様化・複雑化しています。
- 高齢の男性が中心となって自治会組織を運営しています。
- 市民活動団体では会員の高齢化が進んでいます。
- 地域において人間関係の希薄化が進んでいます。
- 市内の全地区で、ちいき情報局^{※1}が開設されています。

※1 パソコンやスマートフォン等を利用した、市内の地域情報を見ることができる地域向けの交流・情報提供サービスのこと。

➤ 課 題

- 自治会運営の持続可能性を高める必要があります。
- 市民活動を活性化させる必要があります。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 自治会や市民活動団体、事業者など多様な主体間の連携や協働を促進します。
- 地域活動や市民活動への関心を高め、参加を促進します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ◇ちいき情報局の活用促進
- ◇環境保全に取り組む市民活動団体等の支援

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
地域における協議の場★1の数	8箇所	14箇所	16箇所
ひらつか市民活動センターの利用人数	26,163人	28,000人	30,000人

★1 様々な地域団体が集まり、地域の課題解決や更なる活性化について、検討し、連携を図る場のこと。

生涯学習や文化芸術活動を推進する

➤ 目指す姿

- 生涯学習の環境や伝統芸能に触れる機会が充実している中、講座や地域での体験活動において幅広い世代の人たちが学び・交流し合い、知識や技能を次の世代につないでいます。
- 多様な文化芸術活動が活発に行われるとともに、触れる機会が確保されており、誰もが豊かな感性を持ってうるおいのある時間を過ごしています。

➤ 現 状

- 地域での学びや伝統文化が地域住民により継承されています。
- 多様な文化芸術活動が、市内各所で行われています。
- 地域課題や現代的課題など、多様な学習機会が提供されています。
- 公民館の運営に地域住民が参画し、全ての地域で活動拠点として活用されています。

➤ 課 題

- 市民一人一人の郷土意識と愛着を醸成する必要があります。
- 若い世代の文化芸術・伝統文化への関心・興味を高める必要があります。
- 生涯学習における市民ニーズへの対応と、習得した知識や技能を地域で活かす環境づくりが必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 平塚らしい文化の創造や、地域内の多世代交流を深めます。
- 文化活動や郷土芸能、歴史への理解を深め、後継者を育成します。
- 文化芸術ホールや社会教育施設を活用し、多様な市民が文化芸術に触れる機会を充実します。
- 学習や発表の場の充実、地域における人材育成や活用に取り組みます。
- 公民館事業におけるESD^{※1}を推進します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

- ◇文化芸術ポータルサイト^{※2}の開設・充実
- ◇電子図書館^{※3}やICT^{※4}を活用したサービスの充実
- ◇博物館の電子展示システムの充実
- ◇社会教育施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

※1 持続可能な開発のための教育。将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育のこと。

※2 文化芸術に関するイベントや活動団体などの様々な情報を確認することができるホームページのこと。

※3 インターネットを通して自分のパソコンやタブレット、スマートフォン等から電子書籍を読むことができるサービスのこと。

※4 インターネットなどを活用してコミュニケーションができる情報通信技術のこと。

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
各種講座・講習会 ^{★1} への参加者数	31,337人	41,700人	43,000人
文化芸術ホール主催事業の参加者数	24,684人	26,000人	27,000人

★1 社会教育課、中央公民館、中央図書館、博物館、美術館が実施する事業のこと。

誰もが楽しめるスポーツを充実する

➤ 目指す姿

- 様々なスポーツ施設や体を気軽に動かす機会が存在し、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しんでおり、心身ともに健康で豊かな生活を送ることができています。

➤ 現 状

- トップスポーツの試合が開催されており、子どもから大人まで観て、楽しむ環境が整っています。
- パラスポーツ^{※1}やニュースポーツ^{※2}への関心が高まっており、スポーツに親しめる機会が提供されています。
- 子どもや高齢者の体力低下、青・壮年期の人が運動不足の傾向にあります。

※1 身体機能や知的発育などに障がいを持つ人が行うスポーツのこと。

※2 競技性を重視せず、誰でも参加できることを目的としたスポーツのこと。

➤ 課 題

- 生涯にわたり多様なスポーツ・レクリエーションに親しめる場、機会が必要です。
- 様々な体力づくりの場、機会が必要です。



重点戦略1

重点戦略2

重点戦略3

重点戦略4

分野1

分野2

分野3

分野4

分野5

取組方針

- 湘南ベルマーレなどが行う取組を支援するとともに、トップスポーツと交流する場を設けて、幼少期からスポーツに触れ、楽しむ機会を充実します。
- 指導者の育成や効率的なスポーツ施設の運営・管理を進めます。
- パラスポーツ等の理解・普及を促進します。
- 体力、年齢、目的、身体状況に関わらずスポーツが楽しめる機会を充実します。

【デジタル化・脱炭素化の主な取組】

◇スポーツ施設における再生可能エネルギーの利用と省エネの取組推進

成果指標

指標名	策定時実績値	方向性（目標値） （2027）	方向性（目標値） （2031）
パラスポーツ・ニュースポーツ 大会等参加者数	4,509人	5,000人	5,500人
スポーツ施設利用者数	1,299,699人	1,657,700人	1,660,400人